



苫小牧市議会議員

小山 征三

# 通信

『冬』号

2016年1月

小山せいぞう事務所

苫小牧市ときわ町1丁目19-23

TEL0144 (67) 8255

## 第4回定例市議会（12月3～11日）終わる

### 駅前将来像が見えない！



苫小牧駅南口の商業ビルエガオの旧運営会社サンプラザの自己破産申請については、市が土地、建物の権利を集約することで動き出していました。12月議会前日の12月2日に破産手続きの開始が決定しました。私は3日の一般質問で、現在の状況と今後の方向性について市長の見解を求めました。岩倉市長は「裁判所の意向を受け、可能な限り協力した。平成28年2月3日に債権者集会が開催される」と説明。全ての地権者の同意を得ていないことから跡地利用の議論は差し控えたい旨の答弁をしました。

私は、JR北海道が駅直結の商業施設「苫小牧エスタ」が平成28年3月末で閉店することにも触れ、駅前再整備をどのように進めようとしているのかについても見解を求めました。岩倉市長は「市が進めるCAP（まちなか再生総合プロジェクト）の各事業や駅前広場再整備計画等に整合した形で再利用を検討していただきたい」と述べました。

市は、エガオ跡地の民間事業者への売却交渉を進める前に、エスタの閉店なども踏まえ「苫小牧の顔」である駅前の将来像をきちんと示すことが先決ではないかと考えます。

### ＝ 市民ホール建設検討委員会 ＝

#### 候補地は、東小学校跡地と説明

平成27年11月16日に開催された学識経験者などで構成する「市民ホール建設検討委員会」で、市民ホールの建設候補地を現市民会館と東小学校跡地と説明したことが明らかとなりました。私たちの会派は、駅前での市民ホール建設を求めてきましたが、これまで市側からは候補地が明らかにされていませんでした。議会で示すことが出来ないものを、なぜ、「市民ホール建設検討委員会」で示したのか、明らかに議会軽視であるとして見解を求めました。東小学校用地は、現に小学校があり教育委員会が所管しています。市長部局が用地を使用する場合には、教育委員会で公有財産の処分、市長部局で取得するという本来、所管換えの手続きを経なければなりません。このため、所管換えをしないまま候補地とすることも問題であると指摘しました。教育長は、東小学校の移転に伴う建て替えの方向性を出したことから東小学校の跡地を建設の候補地として考えたのだろうと述べ、佐藤副市長は、所管換えの手続きは必要とした上で、あくまで検討する際の候補地だという苦しい答弁でした。

### 【 一般質問 】

#### 1 政治姿勢

##### (1) 中心市街地のまちづくり

ア 旧駅前商業ビルエガオについて

イ シンボルストリートについて

ウ 市民ホールの建設について

##### (2) スポーツ都市宣言50周年事業

#### 2 防災対策

##### (1) 消防体制の強化について

##### (2) 防災フロアについて

#### 3 放射性廃棄物

北海道新聞

2015年(平成27年)12月4日(金曜日)

## 跡地利用に慎重姿勢

### 市長 エガオ地権者に配慮

空きビルになっている商業施設「苫小牧駅前プラザエガオ」の旧運営会社サンプラザ(苫小牧)の破産手続きが2日始まったことについて、岩倉博文市長は3日の定例市議会で「裁判所の意向を受け、市として可能な限り協力してきた」と述べ、一定の役割は果たしたとの認識を示した。小山征三氏(民主・市民連合)の一般質問への答弁。市は駅前再生に向けて、エガオの土地建物の単独所有を目指しているが、市長は「地権者100%の同意を得ているわけではなく、微妙な時期が続く。裁判所の取り組みにも影響を与えない状況で、実現は難しい」と答えた。

かねないもので、市長としての跡地利用の考え(を明らかにすること)は差し控える」と慎重姿勢を示した。跡地利用に関し、小山氏が「市が建設を検討している『市民ホール』は駅前に建てるべきではないか」とたたしたのに対し、市は「駅前に建設できる市有地がない状況で、実現は難しい」と答えた。

## シンボリストリート事業 過去の施策の検証と再構築を

平成3年に着工し、平成6年に完成した駅前本通のシンボリストリート整備事業は、商店街を活性化する目的で電線類を地下に埋設したほか、歩道の舗装に御影石を用い「波・風・工業・白鳥」などをデザインした車止めや照明灯を設置しました。また、この事業に合わせメモリアルプレート（子供の足型プレート）の設置事業も行われ、岩倉市長就任後も、この足型プレート設置事業を支援してきました。当時、市では中心市街地活性化対策室を設置して事業展開していましたが、現在は、撤去や破損しているものがあることを指摘。過去の施策の検証と再構築を求めました。市側は「まちなか再生の視点から有効活用していく。メモリアルプレートは、個人の費用負担により設置されていることから復元など適切な対応が必要」と答えました。



### 新開町の消防合同庁舎は、東の拠点

### 日新出張所を西の拠点とすべき！

新年度から消防本部と消防署が入居する合同庁舎が新開町にオープンします。これにより末広町の消防署が出張所に、住吉町の出張所は消防団の詰所となり、1本部、1署、5出張所の体制となることが明らかになりました。平成26年9月の「市政に臨む基本方針」では、老朽化が著しい日新出張所の建て替えに向けた実施設計などが示されていたことから建て替えに際しては、東西に40キロという細長いまちであること考慮し、新開町の消防庁舎を東の拠点（空港、港湾、コンビナートなどの特殊災害対応など）、建て替えの日新出張所を西の拠点（樽前山火山防災や津波浸水地区対応など）として地域事情を考慮した体制を確立すべきであると提案しました。消防長は「今後、本部・署移転に伴い影響される日新出張所の地理的な特殊性や問題点を洗い出し、何が必要かを見極めた上で、建て替え計画や消防組織などを検討していく」との見解を示しました。

完成した新開町の消防合同庁舎



《熱血現場主義》 小さなことでも身近な問題を地域から発信します！

# 苫小牧民報

## シンボリストリート事業で設置のプレート 破損などで10枚撤去状態 復元を含め今後の対策協議へ

苫小牧市

苫小牧市は、中心街で1991年度から進めたシンボリストリート整備事業などに合わせて、子供の足型を黒御影石に刻み、歩道に設置したメモリアルプレート(30センチ四方50センチの高さ)を、破損などで10枚を撤去した状態になっていることを3日の市議会定例会で一般質問で明らかにした。市は、復元を含め今後の対策について苫小牧駅前通商店街振興組合や苫小牧駅前通中心商店街振興組合と協議する考え。

街振興組合と協議する考え。小山征三氏(民主・市民連合)への答弁。市道維持課によると、プレートは希望者を募って有料で設置。91〜94年度にシンボリストリート整備事業で278枚、2005〜07年度の商店街コミュニティ形成事業で231枚を、JR苫小牧駅南口から国道36号までの駅前本通の歩道800メートルの路面に取り付けた。

計509枚のプレートのうち、今も路面に飾られているのは499枚。剥がれてしまったり、破損したりしたプレート10枚を撤去し、8枚を保管。残る2枚は紛失した。建物の建設工事や作業用車両が歩道に乗り入れたことなどが原因とみられる。市は「個人の費用負担で設置されており、復元など適切な対応が必要」と考えている。道政担当者として、工事で歩道に車両を乗り入れる業者にプレートを破損しないよう指導したい」としている。

### 高レベル放射性廃棄物の処分場

### 政府が閣議決定で方針変更

東日本大震災と福島原発事故から4年半が過ぎました。福島原発の事故で、「原発安全神話」が崩れたにもかかわらず、政府は「原発事故はコントロールできている」とし、いかにも安全であるかのように再稼動し、その上、新設や輸出までしようとしています。仮に原発が動き続ければ、毎年発生する使用済み核燃料は、処理できないまま1千〜1千2百トンずつ増え続けることとなります。

原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場は、従来の自治体が受け入れを表明する「公募方式」から国主導で処分場選定を行う形に見直す新たな基本方針が平成27年5月22日に閣議決定されました。この方針の説明会が6月1、2日に札幌市内で非公開のまま開催されました。説明会の開催自体に反発する自治体がある中で、本市では環境衛生部が出席していることが明らかになりました。担当を環境衛生部とした理由と、政府の基本方針に対する岩倉市長の見解を求めました。市側は、国からの情報提供の場であり、放射線測定などを所管する環境衛生部が出席したが情報は共有していると述べ、岩倉市長は、北海道には特定放射性廃棄物に関する条例があり慎重に対処すべきと説明。受け入れ難いと明記していることから今後とも国や北海道の動向を注視していく考えを示しました。

小山征三

検索

